

## 21. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 ジュニア・レジデントプログラム

1. 指導責任者： 荒木倫利（耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長）

2. 研修期間：4 週間、（2 年目選択）

3. 目標

### 【GIO】

耳鼻咽喉科領域の一般外来でよく遭遇する疾患について理解し、耳・鼻咽喉頭・頸部の観察・診断・簡単な処置が行え、専門医へのコンサルトが必要かどうかの判断ができること、並びに、鼻・副鼻腔手術、口腔・扁桃手術、頭頸部外科手術に参加することを通して解剖学を理解を深めることを目標とする。

### 【SBOs】

1) 耳・鼻咽喉頭・頸部の観察が行え、よく遭遇する疾患の診断ができ、治療の方針が立てられる。

- ①電気耳鏡・顕微鏡を用いた耳の観察と、外耳炎・中耳炎等の診断
- ②額帯鏡・鼻鏡・鼻咽腔内視鏡を用いた鼻腔の観察と、鼻炎・副鼻腔炎等の診断
- ③額帯鏡・舌圧子・内視鏡を用いた咽頭の観察と、扁桃炎・扁桃周囲膿瘍等の診断
- ④内視鏡を用いた下咽頭・喉頭の観察と、気道狭窄、反回神経麻痺、腫瘍性病変、嚥下障害等の診断
- ⑤触診、頸部エコー、CT を用いた頭頸部腫瘍疾患の診断
- ⑥外来でのスクリーニングとして行うべき平衡機能検査・Frenzel 眼鏡を用いた眼振の観察

2) 以下の検査の適切なオーダーができ、結果が判断できる

- ①耳・顔面・副鼻腔・喉頭の単純レントゲン
- ②頭頸部の CT・MRI
- ③聴力検査：純音、tympanometry、アブミ骨筋反射、語音聴力検査など

3) 脳神経の解剖・機能に関する知識と、検査方法を習得する。特によく遭遇する以下の障害に対して検査の適切なオーダーができ、結果が判断できる

- ①嗅覚障害 ②顔面神経麻痺 ③聴覚障害 ④平衡障害 ⑤嚥下障害 ⑥嗄声

4) 上気道感染症に対する知識を持ち、適切な治療法が選択できる。特に危険な気道閉塞を伴う感染症（緊急を要する上気道感染症）が診断できる。

5) 患者・家族と適切なコミュニケーションがとれ、患者の総合的な利益を優先させる判断ができる。

#### 4. 方略 LS

##### 1) LS1 (OJT)

- ①外来診療を見学する。担当医とともに、できる限り多く所見をとり、耳・鼻咽喉頭・頸部の診察手技の習得とともに、正常所見・異常所見を鑑別する目を養う。
- ②手術は、助手として清潔ではいり、指導医のもとで参加する
- ③主治医の元で、入院患者を担当する。

##### 2) LS2 (勉強会)

- ①耳鼻咽喉科 回診・カンファレンス  
担当医とともに毎朝回診を行い、患者の状態を把握する。術前・入院前に行われるカンファレンスにて症例の理解を深める。
- ②病院のジュニアレジデントに対するカンファレンス  
他の業務に優先して参加する

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟回診、 外来診療	病棟回診、手術	病棟回診、 外来診療	病棟回診、手術	病棟回診、 外来診療	病棟回診
午後	細胞診、対 診、小手術、術前説 明、カンファレン ス	手術、術後回診	細胞診、対診、 小手術、術前説 明	手術、術後回診	細胞診、対診、 小手術、嚥下検 査	病棟業務

#### 5. 評価 EV

研修記録、経験症例、経験手技などにつき自ら記録を残し、研修終了時に責任者と面談時に提示し、評価を受ける